

15-i モデル クリニック

国立大蔵病院 鈴木謙次

当院では、昭和56年12月15日に、10歳代の人を対象とした「青春期外来」を開設した。

現在、日本では、婦人科、精神科などの診療科に所属する思春期外来はあるので、当院では一つの試みとして、窓口を各診療科に属さない「青春期外来」として、直接に新患を受けられるようにした。院内各科、院外からの依頼に応ずるのは勿論である。

開設にあたり、青春期外来の趣旨を説明した印刷物（別紙）を、①病院内に掲示し、②外来患者の全葉袋の中に、16日間にわたり同封した。

当外来は、患者が来院しやすいように午後に関き、週2回を精神科医1名、小児科医1名の2名が、夫々週1回担当している。また、診療室も、一般外来とは別棟の特殊診療棟にもうけた。

昭和56年12月15日より現在（昭和57年1月23日）まで約1カ月間の新患は5名、再来と合せて、診療延べ人数は10名である。訪れた経路は、印刷物を見ての来院1名、院内診療科からの依頼2名、職員紹介2名である。疾患別では、登校拒否2名、ヒステリー1名、気管支喘息（心身症）1名、覚醒剤中毒1名であり、年齢は、14才1名、15才1名、18才2名、19才1名であり、性別では、男子4名、女子1名である。5名中4名は継続治療中であり、1名（覚醒剤中毒）は専門病院である国立療養所を紹介した。

以上より、この年代の医療への地域の要望が潜在しているという感じを受けているので、今後の状況を見ながら、当外来のあり方、および当外来の存在を知ってもらうための方法を検討したいと考えている。

（別紙）

青春期外来開設のお知らせ

主として、小学校高学年生、中学生、高校生などの10歳代の人々を対象とした外来です。

この年代の人々は、子供から大人への発達途上にあつて、身体的にも精神的にも病気や悩みを持ち易い時期にあります。

いままでの病院の組織では、どの科を受診したら良いのか、迷われる方もあったと思いますので、上記外来を開設しました。

適切な専門診療科と連携をとりながら診療をいたします。

- 受付 毎週 火曜日と金曜日
午後2時～4時まで
総合受付 ②初診受付
- 診療室 特殊診療棟 1階 青春期外来
- 担当医師 鈴木謙次
木谷信行

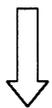
昭和56年12月15日

国立大蔵病院長



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



当院では、昭和 56 年 12 月 15 日に、10 歳代の人を対象とした「青春期外来」を開設した。現在、日本では、婦人科、精神科などの診療科に所属する思春期外来はあるので、当院では一つの試みとして、窓口を各診療科に属さない「青春期外来」として、直接に新患を受けられるようにした。院内各科、院外からの依頼に応ずるのは勿論である。開設にあたり、青春期外来の趣旨を説明した印刷物(別紙)を、病院内に掲示し、外来患者の全薬袋の中に、16 日間にわたり同封した。